国連開発計画（UNDP）
パレスチナ人支援プログラム

ガザの卓球大会で、大久保武パレスチナ関係担当大使（右）とUNDP副代表からカップの贈呈を受ける優勝者（左）

ガザ地区の若者とスポーツ部門に対する支援

ヨルダン川西岸、ガザ両地区に暮らすパレスチナ人の30%以上は若者です。孤立状態にあるガザ地区では、住民全体に悪影響が及んでいますが、特に若者は極めて困難な現実に直面しています。封鎖や戦闘行為の継続、所得の損失といった要因は、若者や大学新卒者をはじめ、住民と地域経済全体に破壊的な影響を及ぼしています。失業はパレスチナの若者にとって、ますます大きな課題となっています。さらに、世界銀行の報告によると、特にガザ地区では、失業率が60%近くに達しています。

失業や貧困、紛争による課題が山積する中で、若者は男女を問わず、その能力や活力、自由時間を生産的、文化的な学習に基づく活動に活用できる健全な環境を欠いています。

「ガザ地区の若者とスポーツ部門に対する支援」プロジェクトは、日本政府からの拠出金15万3430米ドルを財源として実施されています。

過去2年間、若者が激しい暴力と困難な経験に晒されてきたガザ地区では、このようなプロジェクトが大いに必要とされています。プロジェクトでは、スポーツ活動を通じ、封鎖下での生活によって蓄積した若者の苛立ちや行き場のない感情の緩和を図ります。また、ガザ地区各地の難民キャンプの若者（男女を問わず）がスポーツの観戦と応援を通じて親睦を深める場も提供します。

プロジェクトの主要素には、54の参加サッカーチーム（19歳未満）の日常的運営に必要なスポーツ用品や諸設備の提供と、提供されるサービスの質的、量的な強化が含まれています。プロジェクトでは、ガザ地区の19歳未満の選手によるサッカー「東京リーグ」に参加するスポーツクラブやユースセンターの能力育成を図ります。プロジェクトはまた、正式なサッカークラブやチームに加入していない若手サッカー選手も支援します。さらに、バレーボールや卓球をはじめ、各種スポーツへの女性の参加を奨励、確保します。その一環として、8つの難民キャンプで卓球大会が行われるほか、女子バレーボール選手権も開催されます。

ガザ「東京リーグ」のサッカー選手

進捗状況と成果

・ガザ地区の 19 歳未満の選手によるサッカー「東京リーグ」に参加する 54 のスポーツクラブとユースセンター（選手計 1232 人）を対象とする能力の構築と強化

・正式なサッカークラブやチームなどに加入していない若手サッカー選手への支援を提供

・バレーボール（選手 460 人）と卓球（選手 160 人）をはじめとする各種スポーツ活動への女性の参加を奨励、確保

・ガザ地区の若者がスポーツ活動に参加できる場を提供

プロジェクト概要

現状：実施中

プロジェクト開始日：2016 年 2 月

終了予定日：2016 年 9 月

ドナー：日本政府

パートナー：パレスチナ・ サッカー協会およびパレスチナ・ オリンピック委員会

対象地域：ガザ地区

主な対象分野：若者とスポーツ

持続可能な開発目標(SDGs)：ジェンダーの平等、不平等の是正、保健と福祉

プロジェクト担当官：

Said Abu Ghazza, Project Manager
Said.abughazza@undp.org

資金拠出・実施状況

ドナー	2016 年の拠出金額
日本政府	15 万 3430.20 米ドル